お・も・し・ろ・人・生
めだかの学校だより
平成11年11月1日
第26号
学舎：いなさ自然休養村
＜つみくさ＞
事務局：引佐郡引佐町
東久留女木 472-111
TEL 053-545-0381

校長訓話

第二十六回校長　今村純子

快適な生活のために

永い間生活改良普及員として、農家・農村の中で明るく住み良い生活を目標に仕事をしてきた。常に生活の向上を目指す内容は一律ではなく、その地域・家族・個々の事情に合わせて前向きに取り組んできた。戦後の昭和30年代は食糧難の中で食生活の工夫をし、40年代は住宅改築が盛んに行われるようになり、下廃水処理の工夫や健康管理対策等についての指導を行った。50年代は転作作物の有効利用や農産物の付加価値向上対策で、農産加工・販売戦略、60年代は農村・農家のゆとりある暮らし方、女性の能力活用、平成になって自然との共生・アメニティ・クラインガルデン等を課題として取り組んできた。最近は緑や自然が見直され、農村の良さが再認識されるようになってきた。ほんとうの豊かさとは、快適な暮らしとはを常に問い続けてきたものとしては、感慨ひとしおのものがある。

生活の豊かさや質は、生活水準の数量化・指標化で計ることは難しい。その概念は所得だけでなく、環境や福祉と並んで人間関係や、個人個人の考え方、活動経験によって満足感はまちまちである。

豊かな暮らしといえばお金さえ持っていればという考えから、国全体の経済成長は著しく進展した。20世紀後半、確かに経済的には誰もが豊かになって快適な生活ができるようになったが、反面それにまつわるマイナス面も多々指摘されている。本来経済発展は、人間の幸せな暮らしをもたらすための手段であったはずが、それ自体が目的になってしまって…この辺でもう一度真の豊かさとは、を考えたい。本来の豊かさ・快適さはお金で買えるものではない。まず自分自身が豊かな人生とはどんな生き方なのかを、自分なりに自覚することから始まる。それがなかったらどんなにお金を稼いでも、人目もうらやむ生活をしていても決して豊かな暮らしをしているとはいえない。だれでも、毎日を快適で素敵に過ごしたいと思っている。けれども自分の思うようにばかりいかないことが多く、不快を味わうことも少なくない。同じ事柄でも不満げに受けとる人と、明るく前向きに考える人がいる。今まで多くの人々との出会いの中で、人には実に様々な暮らし方、考え方があることを教えられた。見習いたいと思った人も大勢いる。ある人から、人間の顔は生まれつきというけれど、20才過ぎた顔は親に似たのでなく、自分の責任だと聞いたことがある。そう思って見ると、確かにその人の生き方、考え方が顔に表れているような気がする。

日々の生活は、無意識に惰性で流れていれば緊張感もなく、進歩も発展もない。何事もプラス思考で考えれば工夫も生まれるし気分も良い。常に五感（視・聴・嗅・味・触）に"心"をプラスした感性豊かで快適な暮らし方ができたら楽しい。

めだかの学校伝言板

・・・・ 第26回めだかの学校を開校するので出席しなさい。開校日／平成11年12月3日(金)6:20PMより ・・・・・

校　長／今村　純子・教　頭／深谷　孝
用務員／中村　明男
給食係／石野省三・池谷　豁・尾上美智子
牧野久子・佐野文子・金子芳美
鈴木正子・大谷香代子・大谷一代
市川美鈴・須山　環・渡辺三ツ子（チーフ）

受　付／大谷一代・山口善門・
金原恵子・服部守孝（後見人）

＜学舎＞ 静岡県引佐郡引佐町奥山1737-286
いなさ自然休養村「つみくさ」
TEL 053-543-0321（開校日のみ）

時間割

1時限目＝家庭科・藤原俊子先生
「21世紀に残したい四季のこだわり料理」
2時限目＝社会科・小林佳弘先生
「21世紀に残したいお話と残したくないお話」

めだかの動き 泳ぎ回るめだかたち

【めだかの学校特別教室[一般公開講座]】

フラメンコライブ
～元気が出る21世紀へ～を終えて
教頭の独り言

特別教室教頭　田邊　哲

まず、佐野文子校長に感謝いたします。校長が「衣装はできるだけ赤と黒で！」と最後に書いて下さったお陰で、私も、当日の素晴らしいシーンを両目でしっかりと見ることが出来ました。そうでなかったら、おだてに乗って森のお粗末」(まだ森の石松にはなり切れていません)に扮し、片目でしか見られないところでした。「森のお粗末」のチンドン衣装に赤と黒が無いのも幸いでした。

次に、事務局の榊原幸雄さん、用務員の高橋俊光さん、SBS学苑本部の米田寛さんに感謝致します。この3名の方々の企画、尽力がなかったら一般公開講座もフラメンコライブも実現出来なかったからです。それから、当日受付他雑務を気持ちよくこなして頂いたすべてのめだかの皆さんに感謝致します。皆さんの爽やかな応対のお陰で、本校生徒以外の出席者の方々の感動もより確かなものになったと確信致します。さて、当日、事前打ち合わせの為5時半に現場に入ったとたん、そこには大成功の予兆がありました。リハーサルとはいえ、フラメンコに生涯をかけている人達の情熱で部屋が異空間と化していたのです。あっという間にハイテンションモードになった私の前に、あの大塚友美さんが颯爽と登場です。クールなのに情熱的、エレガントなのにセクシー、彼女は、目覚まし時計が鳴る前に女性に捧げるすべての賛辞を枕元に毎朝飾って置いて上げたくなるような女性です。男に生まれて良かった！しかも浜松出身！大塚友美さん万歳！7時、さあ、開校。超ハイテンションモードになってしまったので、日本国歌、スペイン国歌の斉唱を思いとどまるのに苦労しました。校歌斉唱だけは我慢出来ずやってしまいましたが、校歌が校歌だけに本校生徒以外の方々にも不自然ではなかったと自分に言い聞かせています…。給食の時間も場内は熱気でムンムン。これから始まるライブの盛り上がりを予告しています。7時50分、大塚友美さんがステージに登場するや場内はもう最初のクライマックスを迎えました。さすがスターです。華があり、声にも艶があります。彼女が惚れ生涯を掛けているフラメンコについての解説を聞き、当日の参加者は全員益々フラメンコファンになったと思います。超フラメンコファンと化した参会者の前で、超一流のギター、歌、そしてフラメンコダンスが披露されるのですが、場内は感動につぐ感動。あまりの盛り上がりに、諸事情の為、踊れないと解説された大塚友美さんまでが少しでしたが踊ってくれたのですからたまりません。場内は感動の坩堝です。最後は、場内総立ちで大塚さんの指導でフラメンコのイロハに挑戦しました。佐野校長を筆頭に、ステージに登った参会者はもうフラメンコダンサー気取り、それもみんな板についてとても素敵でした。散会するのが惜しい程盛り上がった2時間でした。30名、とめだかの出席人数の少なさが気になりましたが場内は満員。それだけ本校生徒以外の参会者が多かった訳ですから、フラメンコの感動を通して本校に関心を寄せて頂く方の輪が広がる事を希望します。参加されためだかの皆さん、この感動を不参加だったためだかのかたにも伝えて上げて下さい。

大塚友美さん、アルサ・イ・トマの皆さん！感動を有り難うございました！この感動のお返しに、今度お会いする時には是非私の打つ遠州「夢街道匠蕎麦」森町を食べて下さい。そして、もし勇気がおありでしたら私の調理する河豚を食べて下さい。それからチンドンの海外遠征はまずスペインからにしますので、その時は一緒にやって下さい。

■町並みを飾るメダカ

地域にも確実に遺伝子があるのではないか。秋たけなわの10月、大須賀町横須賀の古い町並みを舞台として、「遠州横須賀街道ちっちゃな文化展」が開かれた。町屋の並ぶ横須賀のあちこちの住宅の玄関や店先などをギャラリーや舞台として、絵画や版画、彫刻や木工、その他さまざまなアートが展示されていた。また、ピアノ教室を借りたコンサートに加えて、町で古くから続いている提灯や竹細工、羊羹や菓子づくり、さらに醤油や麩を製造する店も「町の名人達」として紹介。この文化展は、深谷、鈴木両メダカを中心として「遠州横須賀倶楽部」が開いた新しい取り組みで、周りの市や町では消えてしまった趣のある町並みを、「なくしてしまってからでは遅い」ということを町の内外に考えてもらう機会として開かれた。この二日間の「町並み出前美術館」には、遠いところでは富山や埼玉、県内も三島や静岡から多くの作家が見ごたえのある作品を出展していた。「メダカの学校」からも、能面の伊藤メダカ、マクラメの鈴木メダカ、創作華石器の耳塚メダカが作家として参加していた。他に、作品の出展ではないが尾上メダカや中嶋メダカが、「特別三社市」と名打っていた露天市に地元の名産品を並べた。私も、町はずれの公民館を借りて田辺メダカや中川メダカ、尾上メダカに手伝ってもらいながら「そば打ち大会」をやり、服部メダカと片瀬メダカが大量の桜エビを抱えながら応援に来てくれた夜の作家達との交流会でもそばを出した。

始めての開催された文化展ではあったが、多くの人々が横須賀の町並みを散策しながら、個展に二つ二つ立ち寄っており、芸術や文化にこのように身近にかつ気楽にふれあえる機会は他ではない。地域の方々も、会場の提供や案内、作品の鑑賞などに幅広く参加しており、芸術や文化の振興が、大きな美術館や施設、有名な芸術家の作品がなくても、あまりお金をかけなくても十分に出来ることを証明して見せくれていた。また、いつも「風紋舘」や「笠井屋」のある横須賀の町に出没している私であるが、この文化展の間の横須賀の町並みはいつもより一層魅力と親しみを感じた。三熊野神社の祭りの賑わいとは違って、自然な賑わいのある秋の昼下がりの町並みは、人を少し懐かしい気分にさせてくれると同時に生き生きとしていてとても素晴らしい町並になっていた。特に飾り立てたわけでもないのに生き生きとして素晴らしいた町並みに見えたのは、やはり多くの人が思い思いに町を歩いていて賑わいがあるからであろう。町並みは建物や看板などのあり方も重要なことであるが、それ以上に人の賑わいが素晴らしい町並みを創り出しているのである。こうした町並みが呼ぶ賑わい、賑わいが生み出す生きた町並みも、21世紀に残したいもの、残せるものの一つであると思った。

（なんでもあり農園小作人の松）

☆修善寺談義

平成12年2月26・27日由布院温泉観光協会長中谷健太郎氏、大分県直入町温泉療養文化館館長首藤勝次氏のお二人をお招きして、学習と交流の会を伊豆最古の湯けむり包む修善寺温泉で開催します。「お二方がそれぞれの地域で何をやったかという話だけに留めずその行動に駆り立てるものはなんなのか、芯に流れているものは何なのか、そして、お二方の生き様に触れたい。」そんなお話をうまく引き出せたらと思っております。（修善寺のホスト役談）ご参加されたい方ご一報ください。詳細な企画がまとまり次第ご案内いたします。

仕掛人　溝口久　q-mizo@kd5.so-net.ne.jp
TEL・FAX 053-421-4573

中谷健太郎　東宝映画で稲垣浩、千葉泰樹の下で助監督をつとめる。一九六二年帰郷。ゆふいん音楽祭、湯布院映画祭、牛喰い絶叫大会などの企画を通し、湯布院独特自の文化的基盤の創出に貢献している。由布院温泉観光協会事務局長を全国公募していくのも氏の仕業。旅館「亀の井別荘」主人

首藤勝次　直入町役場職員大丸旅館主人

一九八九年よりドイツとの国際交流事業を推進。一九九三年より商工観光課係長時代に自治省プロジェクト企画に参画し、国際交流、文化振興を推進すると同時に観光協会事務局長を兼務。また一九九七年に地域財産を利用した町おこしを検討する「国際シンポジウム温泉と文化」を担当すると同時に直入町温泉療養文化館館長に就任。地域特性、観光資源を活かした温泉地の活性化に様々な角度から取組み、成功している。

イベント まつり情報

●平成11年度しずおか未来づくりネットワーク交流会議ｉｎ浜名湖「いいじゃん　浜名湖　けっこいじゃん」～湖西市、細江町、引佐町、三ヶ日町・四つの「まち」の物語～

しずおか未来づくりネットワーク交流会議は11年11月26日(金)～27日(土)、三ヶ日町下尾奈の浜名湖レークサイドプラザを主会場に行います。今回の交流会議は、静岡県の西部浜名湖岸を会場に、浜名湖の水はひとつ、湖岸の"まち"は連帯と共感の運命共同体。しかし湖岸の一市三町は似て非なるもの…良く似ているようで、伝統に裏打ちされた個性豊かな"まち"。さあ、あなたは何を感じます。

◆プログラムは、26日(金)ＡＭ10：00～分散研修(湖西市、三ヶ日町、細江町、引佐町)16：00受付、16：30開会式、主催者あいさつ実行委員長夏目厚司(めだかの学校)他。地域づくり団体表彰。18：30交流会アトラクション(子供原人太鼓)。20：30夜なべ談義(おつまみ持ち寄り大歓迎・もちろんお酒も)。

◆27日(土)9：00分科会(①～⑤)

①「なんでもあるに、湖西へおいでん」～障子を開けて見ろ、外は広いぞ(湖西への提言)～

②「姫街道、でほのこき放題」～姫街道、過去、現在、未来～ネットワークのつくり方。③「ひと好き…　もの好き…　いなさ好き…」～夢中人の里づくり～。④「原人の里は今」～目を醒ませ！眠れる資源、マンパワー～。⑤「そっとのぞいてみてごらん　となりのひと(まち)はどんなひと(まち)ちょっとひと声　ひと(まち)づきあい」～県際、広域ひとネットワーク～(座長本島慎一郎・記録鈴木真弓)。11：00分科会報告。11：30総括　12：00閉会。

◆分散研修　湖西市＝12：00集合ＪＲ鷲津駅前(マイカーの場合は湖西市役所)。四季を通じて歩けるアルカミーノ、豊田佐吉記念館、干潟造成実験地など散策研修。定員40人。昼食代など(1000円)。細江町＝10：00(Ｂ-1)。11：00(Ｂ-2)集合。やっとかめ　みんなで歩こう姫街道、気賀関所、陣屋庭園鑑賞、国民宿舎でコーヒーブレイクなど。定員50人。1000円(入館料、昼食、お土産代)。引佐町＝11：30引佐町役場。奥山自然休養村つみくさにて昼食。獅子舞夢中人のアトラクション、奥山方光寺、からくり人形館、久留女木の棚田など見学。おみやげ付。定員60人。1000円(入館料、昼食、お土産代)。三ヶ日町＝11：30浜名湖レークサイドプラザ。求む！原人捜索隊。釣山ふれあい広場にて昼食、みかんワイン、他地酒の試飲。みかん狩り。平山祥月洞「原人住民跡？の探検」。汚れてもよい服装、雨合羽、長靴、軍手、懐中電灯。定員50人。1000円(昼食代、お土産代)。

参加費15000円(1泊朝食、交流会費含む)。5000円(交流会費)。交流会議のみに参加の方は無料。参加希望の方は、静岡県地域振興室〈郵送〉〒420-8601静岡市追手町9-6。ＦＡＸ054-221-2776。又は、湖西市企画調整課053-576-4541。細江町企画商工課053-523-1112。引佐町企画商工観光課053-542-1112。三ヶ日町企画課053-524-1112。めだかの生徒で、各町に関係しない人は、まとめて申込みますので、11月10日(水)までに分散研修、交流会、宿泊、分科会などご記入のうえ、郵送、又はＦＡＸ(053-545-0381夜間)でご連絡下さい。今回の交流会は、「めだかの学校」の生徒が大きくかかわっています。実行委員長の夏目厚司、細江町は鈴木知賀男、久米久乃利、上嶋裕志、引佐町は伊藤茂男、未来ネットワーク幹事として本島慎一郎、鈴木武史、榊原幸雄、アドバイザーには、武井紀夫、花井孝といったあんばいです。大会の盛り上げに、大いにご協力をお願いします。めだかの生徒こと、言われなくても泳ぎ回っているでしょうね、きっと。(榊原幸雄生徒)

●スポーツを越えた！サトウキビ刈り大会

秋本番、今年もまたサトウキビ刈りの季節がやってきました。無農薬、有機栽培で育てられたサトウキビは横須賀の特産品「よこすかしろ」の原材料となります。スポーツを越える重労働？あなたも体験してみませんか？とき・平成11年12月5日(日)午前10時より　ところ・大須賀町なんでもあり農園(サンサンファームすぐ南側)参加費1500円(よこすかしら1kgのおみやげ付)バーベキューの準備はしますがお弁当は持ってきた方がＧｏｏｄです。おやつはサトウキビかじり放題！サンサンファームで製糖作業の見学、「ふっきり」の試飲もできます。尚、刈り取り作業は11月中旬から開始予定、手伝い方はいつでもどうぞ！連絡先風紋館ＴＥＬ・ＦＡＸ0537-48-4375　ＡＭ10：00～ＰＭ6：00　木曜定休

(はだしの小作人　鈴木武史)

メダカ春秋

◇親メダカがかわれば　子メダカもかわる

21世紀を目の前にし、わが国の子メダカは、豊かな環境の中で、伸び伸びと健やかに成長している。

あるメダカは、国際的協力活動に進んで参加したり、優れた身体能力や感性・表現力をスポーツや芸術等の場で生かしている。

しかしながら、子メダカによる非行・犯罪や問題行動は、戦後第四のピークに差し掛かりつつあると言われている。その内容も、凶悪・粗暴化する一方で、薬物乱用、性の逸脱行為など多様化している。街を歩くと、ジベタリアンが恥じらいもなくたむろしている。バスに乗れば、人前で化粧をする子メダカ・携帯で大声で話す子メダカ…。

これらの子メダカたちはジコチュウとか規範意識がないとか、欲望や衝動が抑えられないとか言われている。21世紀を担う子メダカの成長としては、いささか心配になってくる。こうなってしまった背景には、社会全体の価値観の多様化や環境の変化によるとされているが、言い換えれば、親メダカの生き方や、在り方の問題である。今の親メダカの生き方や在り方が子メダカにとって参考にもならなくなっているのか。だから、子メダカは親メダカを無視し、反発すらするのである。そして自分たちの世界を作り上げてしまう。

親メダカの願いは、21世紀を担う子メダカたちの健やかな成長と力強く生きていくこと、そして、世界中の川で泳ぎ回ることだ。そのためには、「親メダカがかわらなければ、子メダカはかわらない」「親メダカが変われば、子メダカも変わる」として行動していかなくては。21世紀には、世界中の川で泳ぎ回り活躍する子メダカを育てたい。

(親メダカ　石野省三)

トピックス

☆学舎の"つみくさ"が、10月25日NHKで放映された。前庭に野の草を並べてのお年寄りの会話。話はずんで野草料理を食べる。タンポポのごま和えは、健康食に最高です。

☆我夢土下座フィールド・フォーク・コンサート。10月16日(土)学舎のつみくさで行われた。約30年ほど前に結成された楽団で、日本のフォークの草分けの存在。なつかしい歌曲に大いに盛りあがる。「25年ほど前、高校生の頃、京都で見て以来。"つみくさ"で出会って感激した」とは友人の弁でした。主催したのは西原弘生徒です。

☆事務局の近くの"いなさ湖"で「星空のもと津軽三味線の夕べ」が10月2日6時半から開かれた。電気もない、トイレもない、駐車場もない、野外劇場工事中のところ。劇場としての設備はないが、小型トラック一車の材木を燃やしての津軽三味線は、湖面と夜空に映えて感動的だった。めだかの榊原生徒の友人白井勝文さんの演奏で、石野省三、松本泰榮、服部守孝、渡辺ミツ子めだかも駆けつけて、盛りあげてくれた。

☆事務局"リンデンバウム"のある、久留女木には素晴らしい棚田がある。このほど日本100選静岡10選の中に入り、認定書が授与された。6月頃にはカメラマンがよく来ます。この棚田を取りまとめているのが、県農林水産部農地計画室の松本芳廣めだか。ただいま「しずおか棚田くらぶ」の会員募集中。希望の方はTEL054-221-2722へ。

☆事務局の榊原幸雄生徒のところへ、山形県三川町の職員8人が、10月26日研修に来る。「なぜ俺だ?!」「本で見ました。人に会い、話すことで50%研修成果は達成する」だって。山形を午前7時に出て、新潟経由で午後1時20分浜松駅へ。浜松駅へ迎えにいき、3時から5時までリンデンバウムで、めだかの学校のこと、いま地域でやっていること、行政マンと民間人との立場の違いからくるズレなど、2時間ほど話す。7時から細江町の国民宿舎浜名湖で、服部守孝、石野省三、加茂光廣、渡辺ミツ子、鈴木真弓、松本泰榮、榊原幸雄が合流して、交流をする。加茂生徒、大いにハッスル、今度は東北地方へ行くのでよろしくと売り込む。なんせしゃべりたいめだか。三川町の皆さんの口の出せるのはほんのちょっと。9時からは部屋にのりこんで、またまたワイワイペラペラ。時計をみれば11時。もうお開きにしようと、別れ難きもお別れしました。めだかの生徒のパワーには、ただただ脱帽とのこと。ほんとに研修になったのかなア。再会を約してお元気で。

☆加茂光廣生徒、NHKラジオ全国放送に出演する。11月12日午前10時から50分間。草笛やレインステック、草遊びなど話す予定とのこと。三川町の皆さんにも呼びかけるとか…。大いにのってます。ハイ。

◆事務局だより

"「めだかの学校の生徒って、ほんとに音痴だなア!」"。第25回めだかの学校(9月3日開校)~去りゆく夏を惜しんで…星空のもと野外で~の授業のひとときのことです。

生徒それぞれが心に残った歌を、50文字のメッセージを添えて提出。100曲近い曲が集まった。それを成田雅志、西原弘、杉本弘、加茂光廣の4生徒と榊原生徒の5名で22曲を選曲し、ギターや草笛の伴奏でうたった。トップバッターは、「赤とんぼ」を選んだ山形尚さん。「赤とんぼではなくてスレキレトンボ」と笑わして歌ってみればなんと、伴奏の杉本先生もタジタジ。まさにスレキレトンボだった。つぎつぎと歌っていくが、心に残った歌と歌うこととは別問題のようだ。歌詞も忘れ、歌心も忘れ、ただただ歌う。ムリもないけど、楽しんでいる。これでいい。でも後半部、ナントナント、名和加代子さん。中嶋豊さん選曲の(題名忘れた。ごめん)歌を、宇宙歩ちゃんをダッコして数人の生徒とうたった。うまいのうまいの、この曲を境に後半部は名歌手ぞろい。オマケに成田雅志先生作詞作曲の「タコがフジヤマ登る」では数匹のタコが踊り出す有様。調子に乗った成田先生、何度も何度も繰り返す。富士山は高いなア~ああしんど。最後は、いちばん多かった「ふるさと」を全員でうたって、去りゆく夏を惜しんだ。

生徒から提出された歌は、「赤とんぼ」「しゃぼん玉」「北上夜曲」「琵琶湖就航の歌」「白い花の咲く頃」「りんごの唄」「明日に架ける橋」「いい日旅立ち」「青い山脈」「戦友」「ふれあい」「プカプカ(西岡恭蔵)」「ゴンドラの唄」「スタンドバイミー」「友よ」「上を向いて歩こう」「君といつまでも」などなど、「君が代」まで出て、多種多様だった。生徒の年令、性格、歴史観などが感じられて面白かったが、やはり一番多いのは、「ふるさと」だった。幼かった頃への郷愁や生まれ故郷を離れて生活している人にとってはふるさとは忘れられないものかも知れない。私自身も生まれ育ったふるさとの両親を思うと、しらずしらずのうちに涙が頬を伝わってくるのです。

私たちは、21世紀に何を残し、伝えていくことができるか…。人としての心や幼かった頃の原風景を思い出しながらも、自らも21世紀へ残り、伝わっていくのです。この本質こそまぎれもない事実で、現実です。忘れないでいきましょう。

(榊原生徒)

■七期の入校手続きを!!

七期は11年9月1日から12年8月31日までです。新入生・継続生ともに手続きが必要です。

同封の入校申込書に記入し入校金1000円を添えて提出してください。在校生(継続生)で、手続きがなされてない方は至急手続きをしてください。入校金納入をもって「めだかの学校生」となりますので、FAXでの申込みは受付けません。特に今回は、申込み書に沿って名簿を作成し直しますので、自動的に名簿からはずれ、自動退学となります。

■各地のたよりの掲載について

各地域でいろいろの催事があると思います。次回発行日は、2月1日ですので、1月20日までに事務局又はエヌビー静岡企画室照井泰子さんあて、FAXしてください。

FAX 053-484-4135まで。

めだかの学校事務局

〒431-2531
静岡県引佐郡引佐町東久留女木472-1111
「リンデンバウム」内　榊原幸雄
TEL・FAX
053-545-0381

※「つみくさ」は学舎のみです。すべての連絡・お問い合わせは、「事務局」にお願いいたします。